

秋田県営秋の宮山荘に関するサウンディング型市場調査に係るサウンディング結果（概要）の公表について

令和6年5月8日
秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課

1. サウンディング実施の経緯

秋田県営秋の宮山荘は、平成18年度から経営の効率化のため、民間事業者のノウハウ及び能力を活用した指定管理者制度による管理運営を行っています。

当該施設は、令和5年度で供用開始から27年以上経過しており、維持管理費が増加しています。施設利用者により良いサービスや安全に利用できる環境を提供するためには、個別施設計画に基づく老朽化対策のほか、大規模修繕を円滑に進めていく必要がある一方で、限られた財源の中で、運営の見直しを含む費用対効果の改善が課題となっております。

本調査においては、公募要件に関すること、施設の効率的な利活用、管理運営における経費の削減に繋がる手法等について幅広く検討するため、民間事業者の意見・提案等を募る目的でサウンディングを実施しました。

2. サウンディングの実施スケジュール

令和5年12月25日	サウンディング実施要領の公表
令和6年1月22日	説明会の開催（参加申込者無しのため未実施）
令和6年3月15日	サウンディングの実施
令和6年5月8日	対話結果（概要）の公表

3. サウンディングの参加者

サウンディング参加者 1者

4. サウンディング結果の概要

対話の項目	対話概要
効果的な指定期間の設定についての意見	<ul style="list-style-type: none">・中、長期的視点に立った計画を立て、安定した管理運営体制の構築や人材の育成、確保のしやすさ等から、現状の5年が妥当と考える。・10年に延長した場合、人口減少による利用者数の減少、人件費や光熱水費等の上昇など、企業努力だけでは対応しきれない変動リスクにより、事業者側にとってメリットよりもリスクが大きくなることが想定される。そのため、参入の競争性を高めるためにも、社会経済情勢の変化に対応し、事業者側のリスクに配慮した分担の明確化や要件を盛り込む必要があると考える。
経費縮減・収益等（施設利用者数、使用料収入）の向上に繋がることの提案	<p>[収益の向上]</p> <ul style="list-style-type: none">・人材不足により宿泊の予約受付できない状況に対応するため、職員の効率的なシフトを組み、団体等の予約確保に努めている。 <p>[省エネ改修]</p> <ul style="list-style-type: none">・築年の古い公共施設に使用されている照明設備は、水銀灯及び蛍光灯が多く、LED化により消費電力を削減できるため、今年度に県が実施したLED改修により経費の縮減が期待できる。今後も、県には省エネに向けた改修を積極的に実施してもらいたい。

参入意欲について	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田県の活性化に貢献したいと考えているが、使命感だけで運営できるものではないため、感染症や過度な物価高騰等の事態を「不測の事態」として整理していただき、県と事業者がリスクの負担を協議できるような仕組みを取り入れてもらいたい。
その他、意見、要望	<p>[指定管理者制度以外の手法による管理運営]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県が民間に売却し民間直営とするか、県から民間への管理委託の手法が想定されるが、一般的には指定管理者制度が妥当と考える。 <p>[県の支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の指定管理施設に関しては、料金併用制や完全利用料金制に関係無く、指定管理料燃料高騰等による収益減に対する県の支援（指定管理料の拠出、燃料高騰等に対する補助金等）をしてもらいたい。 <p>[修繕]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設や設備の大規模修繕以外に、耐用年数が迫っている設備の維持修繕や保守、老朽化した椅子・机等の備品について県での更新や修繕を実施してもらいたい。

5. サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディングにより、指定管理期間、資格要件、経費縮減・収益等の向上、施設の効率的な活用方法、その他、意見、要望等の御提案をいただきました。

今後、今回のサウンディングの結果を踏まえて、公募条件の整理や効率的な管理運営手法等について具体的な検討を進め、次期指定管理者の公募及び選定を行います。